

毛原の棚田

この毛原の棚田は、何世紀にもわたって毛原の風景の一部を担っていました。この小さな山間の村の歴史は、少なくとも平安時代（794 年～1185 年）にまでさかのぼります。約 600 の水田の中には、土地の特徴のために非常に狭いものもあります。いくつかの小道が畑、また茅葺き屋根の家と水車小屋のそばを通っています。村の頂上近くにある展望台からは、段々になった風景を一望することができます。

毛原の村は、かつての丹波と丹後地域の境にあり、昔、鬼が住んでいたとされる大江山の麓にあります。地元の人たちは、ここで何世紀にもわたって農林業を中心としたサステナブルな生活を続けており、少なくとも 1000 年は棚田を維持することを望んでいます。村には住居は 13 軒しか残っていないため、村の人は観光客を温かく歓迎し、新規の移住者を迎えるためにお米作りに関心のある人たちへ、棚田オーナー制度を運営しています。

展望台の他にも、ログハウスのゲスト用コテージ、イタリアンレストラン、ウェディングチャペル、自分で摘み取れるブルーベリーとブラックベリーの庭園、自然素材を用いた衣料品店とアトリエ、前もって予約することで使用できるレンガのピザ窯、お米を炊くかまど、どぶろく醸造所などがあります。